

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第6177385号
(P6177385)

(45) 発行日 平成29年8月9日(2017.8.9)

(24) 登録日 平成29年7月21日(2017.7.21)

(51) Int.Cl.	F I
B 6 5 D 30/28 (2006.01)	B 6 5 D 30/28 K
B 6 5 D 33/25 (2006.01)	B 6 5 D 33/25 A
B 6 5 D 33/00 (2006.01)	B 6 5 D 33/00 C

請求項の数 4 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2016-106337 (P2016-106337)	(73) 特許権者	506099557
(22) 出願日	平成28年5月27日 (2016.5.27)		有限会社水戸菜園
(62) 分割の表示	特願2012-521515 (P2012-521515)		茨城県水戸市河和田3丁目2352-8
原出願日	平成23年6月16日 (2011.6.16)	(74) 代理人	100165135
(65) 公開番号	特開2016-147718 (P2016-147718A)		弁理士 百武 幸子
(43) 公開日	平成28年8月18日 (2016.8.18)	(72) 発明者	後藤 典夫
審査請求日	平成28年6月16日 (2016.6.16)		茨城県水戸市河和田町3丁目2352-8
(31) 優先権主張番号	特願2010-158295 (P2010-158295)	審査官	冢城 雅美
(32) 優先日	平成22年6月24日 (2010.6.24)		
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 四面立体包装体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

左側面シーム又は折り曲げ部と、
右側面シーム又は折り曲げ部と、
上端側面シーム又は上側面折り曲げ部と、
開口した下部側面を有し、
前記上端側面シーム又は前記上側面折り曲げ部から所定の距離だけ隔てた内面にはファスナーが設けられており、
前記下部側面から被包装物が収納される袋体から形成される四面立体包装体であって、
前記袋体の開口した前記下部側面から被包装物が収納された状態で、前記ファスナーと直交する方向に前記下部側面が広幅側面シームで封止された四面立体包装体。

10

【請求項 2】

前記上端側面シーム又は前記上側面折り曲げ部と前記ファスナーとの間に直線状切り離し部を有している請求項 1 に記載の四面立体包装体。

【請求項 3】

前記左側面シーム及び前記右側面シームは、引き裂き可能に形成されている請求項 1 又は 2 に記載の四面立体包装体。

【請求項 4】

開口している前記下部側面の左角部と右角部のそれぞれに、扇形の引き裂きガイドが設けられ、開口した前記下部側面から被包装物が収納された状態で、前記左角部の引き裂き

20

ガイドと前記右角部の引き裂きガイドが接合されており、前記ファスナーと直交する方向に前記下部側面が広幅側面シームで封止された請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の四面立体包装体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、合成樹脂シートやラミネートされた薄い紙等から成形される四面立体包装体（トラス状立体包装体）及びそれに使用する袋体に関する。詳しくは食物等の内容物の一部を開封部から取り出した後に、再び開封部を密閉すれば、残余の内容物を収納した状態で、再び初期のトラス状立体包装の状態を保形的に密封できる四面立体包装体及びそれに使用する袋体に関するものである。

10

【背景技術】

【0002】

従来、四面立体包装体は、平袋に比較し、シート面積が最小で最大の内容積の包装体を得ることができるので、飲料の特に牛乳パックや一口サイズのつまみ包装等に使用されている。

【0003】

前者の牛乳パックは、内面がラミネートされた硬質の紙でできており、上方に開けた小孔にストローを差し込んで飲むようになっているのが殆どで、指等で開封して飲むようにはなっていない。

20

【0004】

後者のキオスク（登録商標）等で販売されている一口サイズのつまみ包装体は、薄い合成樹脂シートで成形された四面立体包装体の一部を引き裂いて開封し、内容物を取り出して食するようになっている。

【0005】

四面立体状の包装体は、前述のように、平袋に比して内容積が最大で、しかもトラス構造であることから強度が大きく、外力に対して潰れ難いという特長を有している。従って、積み重ね保管中や輸送中に潰れて損傷し、収納物の品質を著しく損なう食物等の包装に好適であるといえる。

【0006】

30

本発明者は、この薄いシートから構成される四面立体包装体を指で開封容易にし、引き裂いて開封したときに皿形になり、そのまま容器としても使用できる包装体を WO 2007 / 119780 A 1 号特許公報（特許文献 1）で提案している。

【0007】

特許文献 1 に記載の発明は、開封したときに包装体がそのまま皿になるので、食器類を使用することなく食することができる。食器類を洗う必要がなく、手間が省けると共に、洗剤や水も節約できるもので環境に優しいものとなっている。

【0008】

又、平袋で使用されている発泡スチロール製のトレイが不要になり、トレイの使用に起因する環境破壊や廃棄処分に掛かるコスト、とりわけ焼却による炭酸ガスの放出が抑えられ、更に包装体そのものの輸送性が向上する画期的な発明といえる。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0009】

【特許文献 1】国際公開第 2007 / 119780 号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0010】

しかしながら、特許文献 1 に記載の発明の四面立体包装体は、開封ガイドに沿って開封した後は封止することができないので、残った食物については、別の密封容器等に移し替

50

えて保存することが余儀なくされている。

【 0 0 1 1 】

最近では、大勢の家族で食するために大きなサイズの包装体も出回るようになってきたが、これと同時に食べ残しが生じ、食べ残した食物を、その新鮮さとその形を維持或いは保持しつつ包装できる四面立体包装体の提供が望まれている。

【 0 0 1 2 】

一方、食材や食物の保存或いは食べ残した食物を冷蔵あるいは冷凍で保存するものとして、開口部に何度でも開封と封止（閉止）できるファスナーを設けた平袋が提案され、広く使用されている。

【 0 0 1 3 】

しかし、平袋では、立体収納空間を形成することができないので、内部に収納した食物等が潰れてしまう虞を有する。

【 0 0 1 4 】

従って、このファスナー付き平袋にあっては、潰れても特に問題のない食材、食物の保存に使用されるに留まっているのが実情である。

【 0 0 1 5 】

本発明は前記課題に着目し、開封して内容物の一部を取り出した後、再び閉止したときに、元の四面立体形状に容易に保持して封止することができ、収納された食物等の潰れを防止し、新鮮さを保持するようにした四面立体包装体及びそれに使用する袋体を提供することを第 1 の目的としてなされたものである。

【 0 0 1 6 】

加えて本発明は、切り裂き開封することにより、そのまま皿として使用することを選択したり、小出しにし、食べ残しの食物をそのまま四面立体包装で保存することを選択して使用できる四面立体包装体及びそれに使用する袋体を提供することを第 2 の目的としてなされたものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 7 】

（ 1 ）請求項 1 に記載の発明は、左側面シーム又は折り曲げ部と、右側面シーム又は折り曲げ部と、上端側面シーム又は上側面折り曲げ部と、開口した下部側面を有し、前記上端側面シーム又は前記上側面折り曲げ部から所定の距離だけ隔てた内面にはファスナーが設けられており、前記下部側面から被包装物が収納される袋体から形成される四面立体包装体であって、前記袋体の開口した前記下部側面から被包装物が収納された状態で、前記ファスナーと直交する方向に前記下部側面が広幅側面シームで封止された四面立体包装体である。

（ 2 ）請求項 2 に記載の発明は、前記上端側面シーム又は前記上側面折り曲げ部と前記ファスナーとの間に直線状切り離し部を有している請求項 1 に記載の四面立体包装体である。

（ 3 ）請求項 3 に記載の発明は、前記左側面シーム及び前記右側面シームは、引き裂き可能に形成されている請求項 1 又は 2 に記載の四面立体包装体である。

（ 4 ）請求項 4 に記載の発明は、開口している前記下部側面の左角部と右角部のそれぞれに、扇形の引き裂きガイドが設けられ、開口した前記下部側面から被包装物が収納された状態で、前記左角部の引き裂きガイドと前記右角部の引き裂きガイドが接合されており、前記ファスナーと直交する方向に前記下部側面が広幅側面シームで封止された請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の四面立体包装体である。

【発明の効果】

【 0 0 1 8 】

前記本発明の構成及び方法に基づく第 1 の効果は、ファスナーを開封して内容物の一部を取り出した後、ファスナーを閉止したときに、再び初期の四面立体形状に容易に保持して封止することができ、収納された食物等の潰れを防止し、新鮮さを保持することができる四面立体包装体及びそれに使用する袋体を提供することである。

【 0 0 1 9 】

加えて本発明の第2の効果は、指で引き裂き可能な第1側面シームと指で引き裂き可能な第2側面シームを切り裂き開封することにより、そのまま皿として使用することを選択し、小出しにし、食べ残しの食物をそのまま四面立体包装で保存することを選択して使用できる四面立体包装体及びそれに使用する袋体を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 0 】

【図1】本発明の一実施例の四面立体包装体を構成する平袋体の製造するファスナーを有するシートの平面図である。

【図2】平袋体を製造するファスナーを有するシートの折り曲げ図である。

10

【図3】ファスナーを有するシートの完全な折り曲げ図である。

【図4】第3図のⅠⅤ—ⅠⅤ線に沿ったファスナーを有するシートの断面図である。

【図5】本発明の一実施例の四面立体包装体として供される袋体の平面図である。

【図6】第5図の袋体を逆さにした四面立体包装体の斜視図である。

【図7】袋体のファスナーを下方に位置させた四面立体包装体の斜視図である。

【図8】袋体のファスナーを上方に位置させた四面立体包装体の斜視図である。

【図9】袋体のファスナーの上方端を引き裂いた四面立体包装体の説明図である。

【図10】袋体のファスナーを開封した四面立体包装体の説明図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 2 1 】

20

以下、本発明の一実施例である四面立体包装体の構成とその製造工程及び包装方法等について詳細に説明する。

【実施例】

【 0 0 2 2 】

本発明の一実施例である四面立体包装体の袋体は、最初は平袋体から構成される。まず、平袋体の製造工程の一例を第1図、第2図及び第3図に基づいて説明する。

【 0 0 2 3 】

第1図は、本発明の一実施例の四面立体包装体を構成する平袋体の製造するファスナーを有するシートの平面図である。第1図において、シートSHは、透明、半透明、或いは不透明のプラスチックシートである。又、シートSHは、ラミネートシートや紙シートでも良い。

30

【 0 0 2 4 】

シートSHの寸法は、縦が60cm、横が25cm、厚さが30～50μmである。このシートSHは、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート等自然に易しい材料のほか、塩化ビニール等で形成され、ロール状に巻かれたシートから前記寸法に適宜裁断して使用する。

【 0 0 2 5 】

第1図に示す平袋体の製造工程において、シートSHは内部にレール状のファスナーfsを有している。ファスナーfsは、凹条紐体fs1と凸条紐体fs2で構成される。シートSHは長手方向中心線c1を有している。このシートSHの中心線c1から左方向に距離sだけ離れた位置に、ファスナーfsの凹条紐体fs1がファスナーfsのシートSHに熱融着されている。

40

【 0 0 2 6 】

同様に中心線c1から右方向に距離d1だけ離れた位置には、ファスナーfsの凸条紐体fs2がシートSHに熱融着されている。凸条紐体fs2は凹条紐体fs1に挿入され、或いは離脱される。開封と閉止する凸条紐体fs2を熱融着する。ファスナーfsの長さはシートSHの幅と同等の長さか、シートSHの幅より若干短い。

【 0 0 2 7 】

第2図は、平袋体を製造するファスナーを有するシートの折り曲げ図である。シートSHは中心線c1で折り返し、折り曲げられる。シートSHは、シートSHの中心線c1の

50

両側に、上方側（表側）シート s h 1 と下方側（裏側）シート s h 2 で構成されている。

【 0 0 2 8 】

第 3 図は、ファスナーを有するシートの完全な折り曲げ図である。第 3 図において、シート S H が折り返し、折り曲げられた後は、折り返えされたシート S H の上方から圧力を加え、ファスナー f s の凸条紐体 f s 2 が凹条紐体 f s 1 に押し込まれ、挿入される。

【 0 0 2 9 】

第 4 図は、第 3 図の I V—I V 線に沿ったファスナーを有するシートの断面図である。第 4 図において、ファスナー f s の凸条紐体 f s 2 が凹条紐体凸条体 f s 1 に押し込まれ、挿入され、ファスナー f s は封止され、ファスナー f s はシート S H に熱融着方法で固定される。第 4 図において、ファスナー f s は指の力で閉止され、ファスナー f s は指で引き出して開封される。ファスナー f s は指の力で閉じられ、指で引き出して開かれる。

【 0 0 3 0 】

第 5 図は、本発明の一実施例の四面立体包装体として供される袋体の平面図である。熱融着をするとき、シート S H やファスナー f s に印加する電磁誘導加熱や超音波加熱エネルギーの時間や、熱融着部分の幅等を調整することにより、熱融着部分を弱くして切り裂き可能にし、或いは熱融着部分を強くして切り裂きを困難にすることができ、使用状態に応じて選択できる。

【 0 0 3 1 】

第 5 図において、平袋体 B G は、左側面シーム（第 1 側面シーム）1 1 と右側面シーム（第 2 側面シーム）1 2 で構成されている。左側面シーム 1 1 は辺 A—B で示される。右側面シーム 1 2 は左側面シーム 1 1 の対向面に設けられ、辺 C—D で示される。この左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は、平袋体 B G の折り曲げ部（第 1 折り曲げ部と第 2 折り曲げ部）としてそれぞれ形成することができる。

【 0 0 3 2 】

左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 はそれぞれ、左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 を引き裂いて開封することを目的とする場合は、弱い熱融着方法で形成する。しかしながら、左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 はそれぞれ、左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 の引き裂きを目的としない場合は、強い熱融着方法で形成する。

【 0 0 3 3 】

左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は、超音波や電磁誘導波による熱融着のほか、ニクロム線に代表される熱線方法による封止も可能である。

【 0 0 3 4 】

左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は、素材のシートよりも部分的に極端に薄くして筋条（線条、紐条）に形成される。更に、左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は、シート素材がシームに沿って縦方向に引き裂くことができる方向性を持ったシートでも代用することができる。

【 0 0 3 5 】

左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は、十分な気密性を具備している。しかしながら、左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は、簡単、且つ、確実に開封できるようにするために、封止強度は指で切り裂く程度の弱いものとしている。左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 のシール幅を 0 . 2 mm 程度、又はそれ以下としたところ、子供でも容易に切り裂くことができる左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 が得られた。

【 0 0 3 6 】

平袋体 B G は、辺 B - C で示される開口部（開口）した下部側面 1 3 を有している。平袋体 B G は、両コーナ部をそれぞれ扇形に切り取って 2 つの引き裂きガイド 1 4 を形成し、この 2 つの引き裂きガイド 1 4 は、平袋体 B G の左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 の間に設けられている。

【 0 0 3 7 】

平袋体 B G は、辺 A - D で示される上側面折り曲げ部 1 5 で構成され、この上側面折り曲げ部 1 5 は、シート材そのものの中心線 c 1 で折り返して完全な封止箇所としている。

この上側面折り曲げ部 15 は、第 4 図の折り返される中心線 c 1 に相当する。

【 0 0 3 8 】

又、上側面折り曲げ部 15 とは別に、開放している上辺として、シート S H の表側シート s h 1 と裏側シート s h 2 の所定の幅 w 1 を熱融着して、上端側面シーム（第 4 側面シーム）16 が形成されており、この上端側面シーム 16 を用いて密封しても良い。上端側面シーム 16 は、ファスナー f s から上方に設けられ、気密性を確実に高める。

【 0 0 3 9 】

ファスナー f s は、上側面折り曲げ部 15 から所定の距離だけ隔てて平袋体 B G の内面に設けられている。ファスナー f s は、気密パックと呼ばれる袋の開口部に使用されているものと同様のものである。気密パックは、冷蔵庫や冷凍庫に食物を保存するために袋の開口部に使用されている。

10

【 0 0 4 0 】

ファスナー f s は、レール状樹脂で形成され、ファスナー f s を閉じている状態、開放している状態に拘わらず、自己が有する弾力によって直線状態に復元しようとする作用を有する。平袋体 B G は第 5 図のように完成される。平袋体 B G は、封止するファスナー f s と左側面シーム 11 と右側面シーム 12 の 2 つの熱融着構成による気密性平袋体 B G である。

【 0 0 4 1 】

平袋体 B G の上辺部には、ファスナー f s とその先端縁に上側面折り曲げ部 15 を設けているので、ファスナー f s の閉塞性が若干損なわれてもシート S H の折り返しでなされた上側面折り曲げ部 15 が確実に封止し、内容物、とりわけ液状物質も確実に封止され、外部に漏れることはない。

20

【 0 0 4 2 】

平袋体 B G は、左側面シーム 11 と右側面シーム 12 で上端側面シーム 16 とファスナー f s の間に 2 つの三角状切り込み部 17 を構成している。この切り込み部 17 から平袋体 B G の上辺部を上方横方向に切り裂くことにより、上側面折り曲げ部 15 と上端側面シーム 16 を平袋体 B G から切り離すことができる。平袋体 B G は、切り込み部 17 に直線状切り離し部を有しており、この直線状切り離し部は、平袋体 B G から上端側面シーム 16 を切り離し、分離する多数の孔を有している。

【 0 0 4 3 】

30

切り込み部 17 は、単にはさみで切り込みをつける方法、第 5 図に示すように三角形に切り込みをつける方法もある。又、切り込み部 17 は 1 個であっても良い。横方向に切り裂き性のあるシートを使用して平袋体 B G を構成すれば不要であるが、矢印等の切り裂き箇所を示す印は必要である。

【 0 0 4 4 】

平袋体 B G は、縦が 30 cm、横が 25 cm である。平袋体 B G は、四面立体包装体に変形している。大容量の立体包装体に変形した平袋体 B G は、食物を小出しにして食し、残りの食物は四面立体包装体 P C で保存することを想定している。

【 0 0 4 5 】

次に、第 5 図に示した平袋体 B G を使用して四面立体包装体 P C を形成するための手順及び方法を第 6 図及び第 7 図に基づき説明する。

40

【 0 0 4 6 】

第 6 図は、第 5 図の袋体を逆さにした四面立体包装体の斜視図である。第 6 図において、ファスナー f s が確実に閉められており、ファスナー f s は下方に位置している。従って、この状態では、上側面折り曲げ部 15 は下方に位置し、下部側面 13 は上辺開口部 18 となる。

【 0 0 4 7 】

この状態で、上部開口部 18 を第 6 図に示すように大きく広げ、ベビーリーフ等の野菜、赤飯、ピラフ等のご飯物、おつまみ等の食物やそのほかの被包装物を収納する。被収納物としては、プラスチックモデルの部品やネジ等の小物等が考えられ、その種類の品物で

50

も袋体 B G に収納できる。

【 0 0 4 8 】

尚、上部開口部 1 8 から四面立体包装体 P C に野菜等を投入するときに空気も一緒に流入し封止されるので、四面立体包装体 P C の形状が保持され、内容物が押し潰されたりしないので、四面立体包装体 P C は輸送中に損傷してはいけないうちごやサクランボ、野菜、或いはそれ以外の包装に適している。

【 0 0 4 9 】

第 6 図において、収納物が上部開口部 1 8 から袋体 B G に収納された後、引き裂きガイド 1 4 に設けた左角部 B は引き裂きガイド 1 4 に設けた右角部 C に合わせ、接合される。開口下部側面 1 3 の角部 B は、開口下部側面 1 3 の角部 B に対向した角部 C に合わせ、接合される。

10

【 0 0 5 0 】

開口下部側面 1 3 は、所定の広幅側面シーム（第 3 側面シーム）1 9 で封止される。広幅側面シーム 1 9 は、ファスナー f s にほぼ直交して平袋体 B G に設けられる。従って、トラス状立体構成の四面立体包装体 P C が得られる。

【 0 0 5 1 】

開口下部側面 1 3 の左角部 B と開口下部側面 1 3 の右角部 C は合わせ、接合される。このとき開口下部側面 1 3 は、開口を有しない下部側面となる。開口を有しない下部側面は、広幅側面シーム（第 3 側面シーム）1 9 で封止される。

【 0 0 5 2 】

20

広幅側面シーム 1 9 のシール幅は 1 0 ミリメートル程度とし、広幅側面シーム 1 9 は確実に封止し、広幅側面シーム 1 9 の一部から指等では開封困難な強さとしている。広幅側面シーム 1 9 は、袋体 B G の四面立体構成を維持する。広幅側面シーム 1 9 の熱封止方法には種々の方法があり選択的に採用される。

【 0 0 5 3 】

第 7 図は、袋体のファスナーを下方に位置させた四面立体包装体の斜視図である。第 7 図において、4 つの角部である角部 E、角部 F、角部 G、角部 H を含む 4 つの側面を有する広幅側面シーム 1 9 がトラス構成で得られた。四面立体包装体 P C の袋体 B G は、広幅側面シーム 1 9 を有し、広幅側面シーム 1 9 は熱融着方法で形成される。四面立体包装体 P C において、広幅側面シーム 1 9 は袋体 B G のファスナー f s に対し直交している。

30

【 0 0 5 4 】

袋体 B G を封止する際に、炭酸ガス等を封入すれば、野菜の鮮度を長期間維持することができ、輸送に数日要するものにも容易に適用できる。収納物に応じて封入するガスを変えることもできる。

【 0 0 5 5 】

第 8 図は、袋体のファスナーを上方に位置させた四面立体包装体の斜視図である。四面立体包装体 P C は四面立体形状で、トラス状四面立体包装体を構成している。四面立体包装体 P C は、上部にファスナー f s、左側面シーム（第 1 側面シーム）1 1 と右側面シーム（第 2 側面シーム）1 2、広幅側面シーム（第 3 側面シーム）1 9 及び上側面シーム（第 4 側面シーム）1 6 からなる四面立体袋体 B G を有している。広幅側面シーム 1 9 は、ファスナー f s に対しほぼ直交方向に形成されている。

40

【 0 0 5 6 】

次に、食物等を収納した四面立体包装体 P C を開封し、食する場合について説明する。第 9 図は、四面立体包装体の説明図で、ファスナー f s を開封し、切り欠き部 1 7 から切り裂きガイドの孔に沿ってファスナー f s の上方端を引き裂いている。

【 0 0 5 7 】

まず、普通に食したいときは、ファスナー f s を開けて収納された食物を所望の量だけ四面立体包装体 P C から取り出し食すればよい。食物が残った場合は、再びファスナー f s を閉じて四面立体包装体 P C を冷蔵庫等に保存する。

【 0 0 5 8 】

50

ファスナー f s は比較的硬化で直線状に成形されているので、開封等のため外力により湾曲させても外力を開放すると元の直線状体態に復元するように作用する。この復元力は、開封しているときも同様であり、ファスナー f s 部は常に下方側面 1 3 に対して直角に維持しようと作用している。

【 0 0 5 9 】

すなわち、シート S H に対して比較的合成の高いファスナー f s を設ければ、ファスナー f s が自動的に保形する。四面立体包装体 P C を再び封止するとき空気が自然に四面立体包装体 P C の中に流入し、空気が満たされた状態で四面立体を維持できる。

【 0 0 6 0 】

又、このとき、他よりも剛性が強い左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は四面立体形状を保持するための補強リブ（支柱）の機能を果たし、四面立体形状の崩れを防止している。従って、ファスナー f s の開封・封止時に、ファスナー f s の協働によって、左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は、四面立体形状の四面立体包装体 P C を確実に保持することができる。

【 0 0 6 1 】

いいかえれば、四面立体包装体 P C を再封止するときに、四面立体形状の四面立体包装体 P C に自然に保形されるため、新規に空気を四面立体包装体 P C に吹き込む必要がなく、四面立体包装体 P C を四面立体形状に容易に維持できる。

【 0 0 6 2 】

これにより、食後に空気が十分に充填された四面立体包装体 P C が再現され、その形が維持できるので、内部に収納されたベビーリーフやその他の食物が潰れることがなくなり、鮮度を保持しつつ保存できる。これは、従来の平袋では達成できない効果である。以上が、主として第 1 の効果を達成するための具体的構成である。

【 0 0 6 3 】

次に、前記構成に基づいて第 2 の効果を達成する具体例を説明する。収納された食物の全部を一度で食する場合は、左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 を引き裂いて、引き裂きガイド 1 4（角部 B 及び角部 C）から左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 に沿って引き裂いて開封する。このとき左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は、ファスナー f s を熱融着した部分の角部 G 及角部 H に位置させられる。

【 0 0 6 4 】

第 7 図において、左側面シーム 1 1 と右側面シーム 1 2 は引き裂かれている。四面立体包装体 P C は皿状を呈している。すなわち、四面立体包装体 P C は食器として供することができる。

【 0 0 6 5 】

開封後は、四面立体包装体 P C 自身が食器として機能するので、食するための食器等を別に用意する必要もない。一方、W O 2 0 0 7 / 1 1 9 7 8 0 A 1 号特許公報に示される従来の四面立体包装体では、一旦引き裂き開封すると再び密封することできないので、残った食物がある場合は、捨てるか、あるいは別の容器に移し替えて保存する必要があり、勿体無いと同時に面倒である。

【 0 0 6 6 】

第 1 0 図は、袋体のファスナーを開封した四面立体包装体の説明図である。本発明によれば、使用者が何回かに分けて食したい場合は、四面立体包装体 P C をひっくり返し、ファスナー f s が上方になるようにする。ついで第 9 図のように、切り込み部 1 7 から横方向に切り裂いて、上側面折り曲げ部 1 5 と上端側面シーム 1 6 を切り離し、ファスナー f s が臨めるようにする。

【 0 0 6 7 】

この状態で上側面折り曲げ部 1 5 と上端側面シーム 1 6 が切り離なされ、本発明の四面立体包装体 P C では、ファスナー f s が臨め、第 1 0 図のようにファスナー f s を開封すれば、必要な量の食物等を取り出し、食することができる。残りの食物については、ファスナー f s を再び閉め密閉し、冷蔵庫等に保存すればよい。

【 0 0 6 8 】

このように本発明によれば、四面立体包装体 P C において、食する状態に応じて開封方法を選択することができ、とりわけ開封したときに食器の機能を有する大容量の四面立体包装体 P C において効果的である。

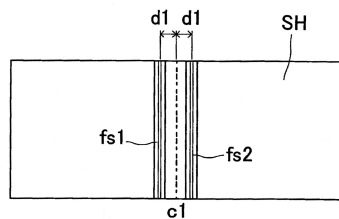
【 符号の説明 】

【 0 0 6 9 】

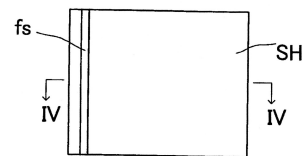
S H	シート
f s	ファスナー
1 1	左側面シーム
1 2	右側面シーム
1 3	下方側面
1 4	引き裂きガイド
1 5	上側面折り曲げ部
1 6	上端側面シーム
1 7	切り込み部
1 8	上部開口部
1 9	広幅側面シーム

10

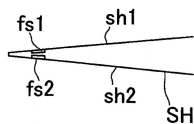
【 図 1 】



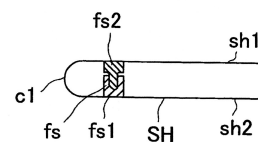
【 図 3 】



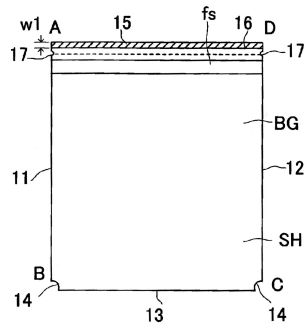
【 図 2 】



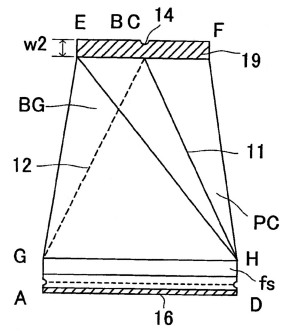
【 図 4 】



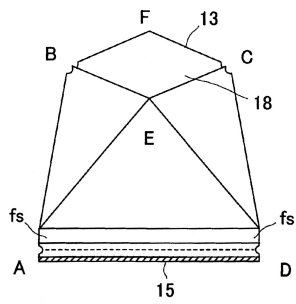
【図 5】



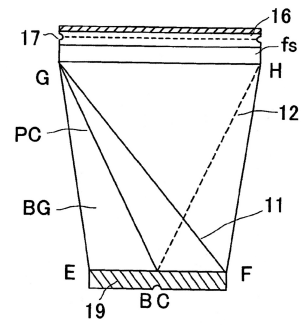
【図 7】



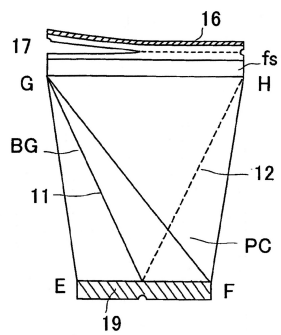
【図 6】



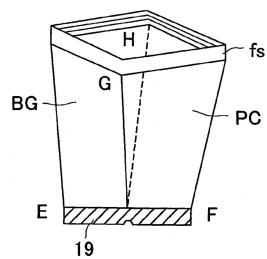
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2003-128088(JP,A)
特開2008-222287(JP,A)
登録実用新案第3054202(JP,U)
実開昭62-013838(JP,U)
国際公開第2007/119780(WO,A1)
実開昭54-070788(JP,U)
特開2005-153884(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D30/00-33/38